



萬葉集遠江歌考 全

南室北
九

4
1298





遠江歌考序

天皇八河采乃志のむを斯ら志臣者
詔教森瓊を國を治む東乃久遠人
都く登理々路々む母安築此系
いたるの志討人於伊弉管時遠法海於
佐きも程の詠る可き也
外代の昔を思ひて解置於一在り也

八十餘年、白雲乃夏、周讓林造
未了、彫て後の學、小傳、閑年、松次
如礼、保義云、曰

岡部のや、義林、縣居、在り、母子
附人、次子、書、文、記、し、書、志、松、の、し、し
英、之、久、死、乃、阿、書、之、皮、乃、許、松、持
之、時、一、其、運、増、ま、る、る、阿、多、書、八、十、年



經之、絶、愛、し、あ、は、海、の、葉、代、耳
傳、守、心、妙、乃、其、白、雲、其、讓、林、造、伊
伊、曾、志、乃、し、石、木、迹、彫、ら、次、と、其
書、成、保、以、能、く、年、於、の、海、の、言、也、乃
亦、も、う、氣、乃、斯、一、比、登、也、也
見、年、一

文、治、二、年、秋、相

う、

北史真多郡

八十餘年記

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

萬葉集遠江歌考

卷第一

二年壬寅太上天皇幸于^{イテマス}夫^ニ河國時歌

引馬野^{ヒクマノ}爾仁保布^{ニニホフ}榛原^{ハヤ}入亂^{イリミダリ}衣尔保^{コロモノニホ}波勢^{ハハセ}多^タ
鼻能知師尔^{ハナノチシニ}

真淵梅子二年壬寅ハ文武天皇即位二年之

太上天皇ハ持統天皇位付時太上天皇トテ御人

以^レ以^テ尋^ハ續日本紀卷第一五十月ノ末ノ

其^レれ^ハ河^ノ小^ノ山^ノノ^ニ於^テリ^テ遠^ク向^テシ^テ至^リ

橋井を續日中紀よみしむ。水はた
祖のいさし考ぬく日記の天平十六年の
大藏の從四位下木東人橋井と云ふ所は
此の系東人の姓を賜りて臣とせしむる
ことハ集賢を考よ木東橋井東人といふも
同一と云ふべし

○九月乃ハ推遷集日伊國の郡の
よきいふれぬみくらよあまのさ
しつとていふべし
新あつて悲しみのあつてぬおとせ月

うらやあつんと傳はるる秋をいふ
中よ月をいふに似るる。その物への
使よ一本便りあり禮記月令曰仲秋之月
鴻雁來季秋之月雁來賓これハ月よん
來るといふ九月よおとすも賓と
すといふは大なるいふに似るは
なるといふ九月よいふに似るは
いふのちいふに似るは使よ
女難武の古よいふ。あつての
のづいよいふに似るは

おはげらうらうらおはーおーのつよは

ふくまぬれりえ

天皇賜報和御歌一首

報和御歌一首
のんい集り

和歌とちりいりる也あらり

大乃浦之其長濱尔縁流浪寛公乎念此日

大の浦と浪の遠はるあまのりい出刻をうそ

はるり天龍川の東は太のりうらふおは

らるりの海をうらうら。ゆい実のな

のりうらうらうらうらうらうらうら

ゆらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

遠江國相聞歌二首

アヒキ、サウセン

い集ありおまの歌ありあまの百人集りてよ恋あり
つらふはゆりてゆりて男女の恋信のこころ
親子兄弟書子をとおおしよんをいふ
うらふ入しあり互におおしよんをいふ
つらふいけ二そい恋のお聞え

阿良多麻能伎信乃波也之尔大赤宇多氏天由
可都麻思自移乎依伎古多尼

といきくの里乃女が留は贈る文え。あまの

に水川郡の名之和名集りてあまの藤玉
郡あり今い小郡もゆりてあまの藤玉
藤玉川は三百丈つらふいけいけい
今もありむらむらあまのあまのあまの
。まごの村はまごのふら村えいけい
ささうなむらむらあまのあまのあまの
よ貴平村ありあまのあまのあまの
國郡に村のり名と佳字ありあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの

いよつと古傳く。いりさきもれに入敷の書
○妹がをくこい妹も亦床の書といふ
古の信傳くいし書と定ちあはれ
あつとやといふ古の書といふ
後述の書の信のちいし書といふ
いづか女といふ書といふ
さし書といふ書といふ
ら書といふ書といふ
く書といふ書といふ
う書といふ書といふ

全巻

入敷の書といふ書といふ
さし書といふ書といふ
ら書といふ書といふ
く書といふ書といふ
う書といふ書といふ
いよつと古傳く。いりさきもれに入敷の書
○妹がをくこい妹も亦床の書といふ
古の信傳くいし書と定ちあはれ
あつとやといふ古の書といふ
後述の書の信のちいし書といふ
いづか女といふ書といふ
さし書といふ書といふ
ら書といふ書といふ
く書といふ書といふ
う書といふ書といふ

同卷
壁言喻歌

いよつと古傳く。いりさきもれに入敷の書
○妹がをくこい妹も亦床の書といふ
古の信傳くいし書と定ちあはれ
あつとやといふ古の書といふ
後述の書の信のちいし書といふ
いづか女といふ書といふ
さし書といふ書といふ
ら書といふ書といふ
く書といふ書といふ
う書といふ書といふ

等倍多保美志留波乃伊宗等尔闲乃宇良
等安比豆之阿良婆已等母加由波年

右一首同郡文部川相

とつたわさゝ遠く海へさげつあきと
清せばさきさきとさきさきと
よとほしあきとあきとあきとあきと
の例よさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと

あるいのうの今あ良しり宗の道よ
のさきさきとさきさきとさきさきと
いされつげい膳具のけしむつて
娘よさきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと
さきさきとさきさきとさきさきと

しるしにうらりて

多^タ知^チ波^ハ母^モ波^ハ奈^ナ尔^ニ母^モ我^ガ毛^モ夜^ヤ久^ク依^サ麻^マ之^ニ良^ラ
多^タ知^チ波^ハ由^ユ久^ク等^ト母^モ依^サ己^ゴ豆^テ由^ユ加^カ年^ム

右一首依野郡文部思當

さごとてハ 擇てん 父母ハ 知よ した あれり
さば おつてよよ さあ げえん かく 思當
さげえ ゆん とし ら げり たり
○依野郡ハ今これ郡よりわきとる海あり
續日成に依益郡の八郷を割て始て山名

郡をかくと作り 延喜式より依夜郡 たり
東集よりしうぬハさやよまけり たり
下よさやの中山より少津野あり 古より
は ちあ路のふらの中山さやよまけり たり
ハ ちあ路のふらの中山さやよまけり たり
る けり たり たり たり たり たり たり
しるしにうらりて たり たり たり たり たり
しるしにうらりて たり たり たり たり たり
しるしにうらりて たり たり たり たり たり
しるしにうらりて たり たり たり たり たり

父母我等能志利弊乃母余具依母與
伊豆麻勢和我伎多流麻豆

右一首同郡生玉部足國

とれしよとづい 殿の後庭をさして
○もよくさハ 未詳さくさくいんぬの
冠辞く 何とよ 〇もよいてませハ百世息
在る伊てまをとくれハ居るまをのくは
あしよいさくのト畧ん。ワがまあるまハ三年
の後ちりてゆりまてん

和多我部麻母盡尔可伎等良無伊豆麻母加
多此由久阿禮波美都志勢波年

右一首長下郡物部古麻呂

いつまゆがハい 吾等くくく
しよしよとふりしよしよと畧せしよの吾
造ハ當集し隠しといぐくしよしよと
るとしよしよしよしよしよしよしよしよ
伊維也注云彦諸河也ん 物部古麻呂
おのしよしよしよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよしよしよしよ

多集ノ東部の文...
 以上十四首ハ集ヨキテ多部の人の多...
 多部の地ありて多...
 多部の地ありて多...
 多部の地ありて多...
 多部の地ありて多...

卷七ノ高浦ノ愛子地袖耳觸而不寐香將成
此之各高浦之愛子地袖耳觸而不寐香將成

古来も貴の衣冠の...
 高浦の冠辞...
 愛子...
 古来も...
 高浦の冠辞...
 愛子...
 古来も...

同卷ノ高浦ノ愛子地袖耳觸而不寐香將成
 紫之名高浦乃名高浦之於磯將麻時待吾
 宇

卷十一

紫之^ナ名高^{ナカ}乃^ノ浦^{ウラ}之^ノ麻^マ藻^モ之^ノ情^{コト}者^ハ妹^{イモ}尔^ニ因^{ヨリ}西^シ鬼^{モリ}字^ヲ

ういさこれ如く〜を之の字よ〜つめらえ
○西の字ハ借々也。鬼の字もこれ〜もむね
これり〜もれけを〜りこれのもの〜皆
鬼〜らんよ〜はるも〜借々〜り

同卷

木^キ海^{ウミ}之^ノ名高^{ナカ}之^ノ浦^{ウラ}尔^ニ依^{ヨスル}浪^{ナミ}音^{オト}高^{タカ}息^{キカモ}不^フ相^ス子^コ故^{ユエ}尔^ニ

↑上のむ〜の〜あ〜ま〜河〜いさ
の海の〜あ〜実との〜れ〜り名る木浦れ

紀伊^キ本^ホよ^ヨあ^ア〜[〜]又^{マタ}紀伊^キ〜[〜]が^ガぶ^ブして
木の字とあ〜れ〜今の人の〜の〜ぶ〜
たよい〜い〜上古よ木神を斎まつ〜
木の^キ本^ホ〜い〜あよ木集〜木〜木本〜
本^キ路^ロ〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜
又甲古よ木郡村軍の名を〜記〜
且二字よ〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜
この字を川〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜
木〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜
伊〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜木〜

遠江歌考補註 一冊



遠江歌考を彫るに由

在^ヨふ加茂真閑乃^ノ後^ニ敷智^ノ伊^イ場^バの里^ノ母^ヲを^シて
 家居^{イハ}す^ル所^ニ周^シ部^トれ^ル黨^トの中^ニより^シ出^スる^人あり^その^所に^在り^て
 其^ノ濱^ニ松^ノノ^驛の梅^ノ谷^ノが^一代^ト主^トと^シて^家職^トを^シり^て
 ふ^つつ^つは^明暮^ノ古^ノ事^ヲを^シり^て飛^ノ子^ノを^シり^て其^ノ道^ヲを^シり^て
 其^ノ道^ヲを^シり^て思^フる^所に^在り^てお^もい^はる^所に^在り^て
 相^ノよ^る所^に在^りて^電の^所に^在り^てお^もい^はる^所に^在り^て
 家^ノ督^トと^シて^坐せ^る所^に在^りて^何れ^ノ事^ヲも^シり^て

たけのこもさうしつゝいふもたけのこもさうしつゝいふも

おめ飛定じりぞとくつりふも其人れ送るはるるもいふ

前ココロ御子とありもては天雲のわりのいふも世をや後あま

又みーかーかゝれすもいふもいふもいふもいふもいふも

まーあゝいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

かーこはいふも豆知乃は英びれ世よこもねあまいふも

あむ又と身こもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

大いふ端おこもれちる書いふもいふもいふもいふもいふも

たけのこもさうしつゝいふもさうしつゝいふもニダガキ草稿のすも

つげの民部少輔暉昌神主阿波守國満神主齊藤信幸神主あど

れもいふも始とていふもいふもいふもいふもいふもいふも

有いふもいふも或も教子あまの壹ウツ政守土満神主在イ今乃内山真

龍史あがみもいふも取らるるもいふもいふもいふもいふも

ふといふもいふも世のあはれもいふもいふもいふもいふも

くも此遠江歎考ハ其度松乃里なる渡邊直之が家よりいふも

傳へいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

解
Cantuarum laqueum urbe a 227 p. 582

文
大
三
十
日
月

辰
日
癸
卯

